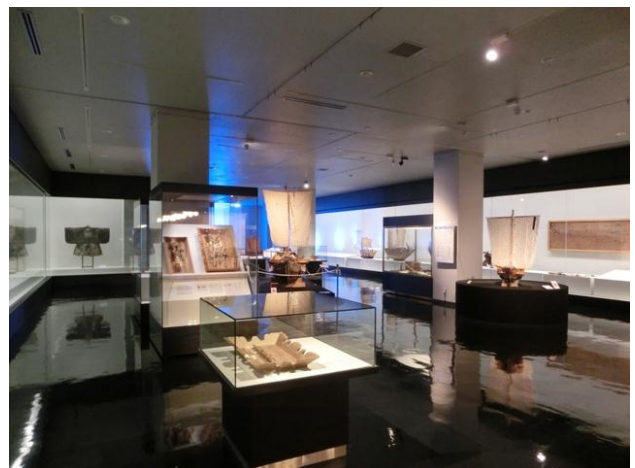


石川県立歴史博物館

平成29年度春季特別展「北前船と日本海海運」

開催期間：平成29年4月22日（土）～平成29年5月28日（日）



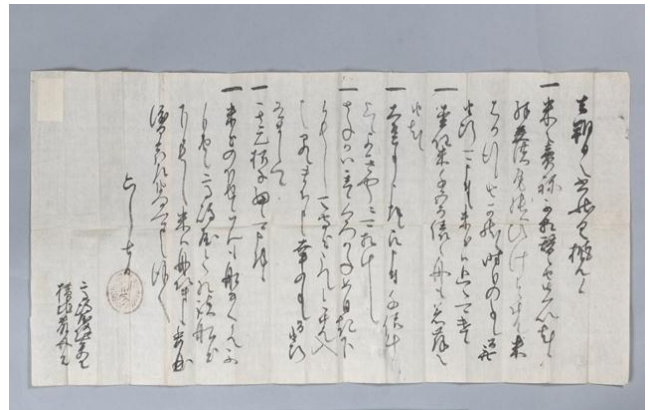
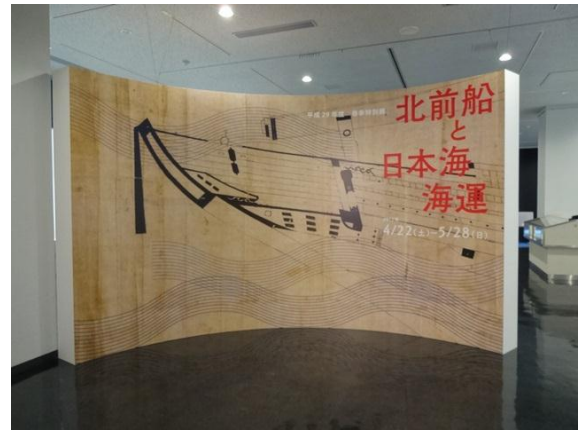
【企画展の目標】

- 幕府や藩の主年貢が米であり、その主要産地でもあった県域が、北前船の拠点だったことを通して、海が物流の大動脈となり経済活動を活性化して社会の発展を推し進め、人々の暮らしと深くかかわってきたことを紹介した。
- 資料展示のほか、講演会や展示室での列品解説、関連地へのバスツアー、連携機関によるイベント開催、土日祝日限定で砂絵・ストラップ作りなど、多方向から海と生活との歴史に興味を持たせる仕掛けを提供した。
- 船主たちを通して「北前船」の活動や歴史的意義を知ることによって地域の歴史にも関心を持ち、それぞれの地域に応じた拠点づくりに向けた取り組みに繋がることを期待した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

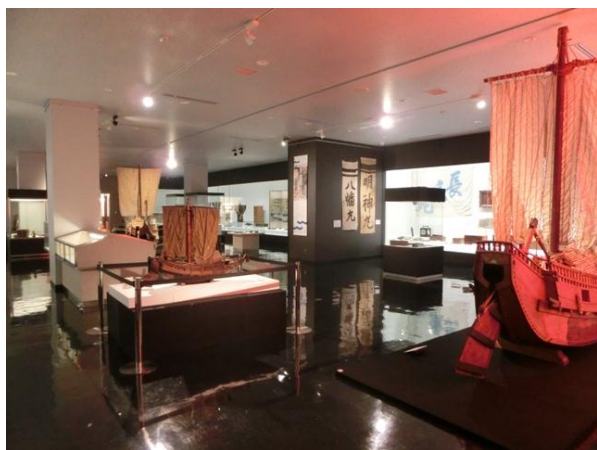
- 開催期間：平成29年4月22日（土）～平成29年5月28日（日）
- 開催場所：石川県立歴史博物館 特別展示室・企画展示室
- 入場者数： 23,969 人



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

第一会場では、第1章 戦国期の交易と、第2章 西廻り航路—航路（みち）を知る—の資料を展示するコーナーとし、日本海で重要だった船の役割を解説、屏風や絵巻から江戸時代の船乗りたちが目にした風景を追体験し、故郷の歴史と深くかかわってきた日本海と北前船への関心を喚起させた。

古文書には、わかりやすい解説・解読文を添え、戦国時代の船の活躍の一端を紹介。日本海の歴史と果たしてきた役割への来館者の興味をわかせる。西廻り航路の中でも、江戸時代前期からの北陸と蝦夷地・津軽・南部の関係に注目、出羽酒田を拠点とした東廻り航路への進出の歴史も紹介。海を伝って日本各地に販路が拡大していたことに気づかせた。



第二会場では、第3章 弁財船—木造帆船（ふね）を知る—と、第4章 廻船問屋—商売（あきない）を知る—の資料を展示。北前船の設計図や、船の模型、船筆筒や船磁石などの実物資料を数多く展示し、地域経済を支えた北前船への興味をかきたてる。船の歴史から、地域と海との関係に気づき、学ぶきっかけとなるよう工夫した。

船筆筒や磁石、革羽織などは、船乗りたちと現代とをつなぐ貴重な資料である。木造帆船で未熟という先入観から、当時のあらゆる知恵と技術を取り込んだ画期的な運航であったことを、資料と解説で紹介。現代の技術やシステムは、歴史や経験から学んだものが多いことに気付かせるとともに、海を活動の拠点とし、海の恵みも海の怖さも学んできた船主たちの行動も、現代人にとって改めて「海を知り、海を学ぶ」契機とした。

【来館者の声】

（県内の方）

- 日本海、通商、時代背景などを展示された遺物等を通じて知ることができた。中高生にもぜひ観てもらってすそ野を広げてほしい。（80代男性ほか複数）
- 歴史のほかにも、北前船や海の事などが関連していることがわかり、新しい知識が増えた。（40代男性）
- 北前船が栄えていた時代のことがよく分かった。以前より興味がわいた。（20代女性）

（県外の方）

- 北前船の模型がすごくよかった。（10代男性／関東 ほか多数）
- 歴史のほかにも、北前船や海の事などが関連していることがわかり、新しい知識が増えた。（60代女性／山陽）
- 順序を追ってわかりやすく解説されていた。（80代男性／北陸）
- 北前船の大きな模型は見応えがあった。（30代女性／関東）

2. 関連事業の内容

■講演会「北前船の歴史と郷土の船主たち」

【開催日時】平成29年4月22日（土）13:30～15:00

【開催場所】石川県立歴史博物館ワークショップルーム

【参加者数】83名

【実施内容・目的】

- 展覧会担当の資料課長濱岡伸也が、北前船の概略と展示の概要を関連付け、わかりやすくお話しする講演会。北前船の歴史全体を学び、地域に沿った事例の紹介から海が経済や生活を支え、文化交流の舞台ともなってきたことの重要性に気付かせ理解を深めてもらうために実施した。
- 海と関わってきた歴史を知ることで、海の大切さを理解し、将来への継承に向けた取り組みにつなげる。未知の資料の情報を掘り起こすきっかけを提供する場となるよう取り組んだ。



古文書史料の解読から、幕末期の廻船問屋で実践されていた経営方針を紹介したり、船の名前を決めるのに15も候補が出てきたことや、山形県の酒田で来春の運航資金を持ち逃げされたりといった、北前船にまつわるエピソードなどを提供し、展示から全体へと興味がわくような内容で実施。古文書などの解読文や、絵画資料の拡大図版を示して、展示への興味と関心を誘導した。質問や意見交換の時間を追加して、興味・関心・

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

疑問などの対話から船や海、また郷土の歴史への関心を高めることを目指して実施した。

例えば、企画展内で展示している船磁石や遠眼鏡、海図について、北前船（江戸時代の木造船）の多くは海の上から陸地や島、岩などを目印に航海しているので、道具類を上手に使いこなすことが、船や荷物を守るうえで重要であったことを示した。こうした経験が、船や海に関わる人々や地域の経済や生活を支え、地域産物の流通や文化交流の舞台ともなってきたことの重要性について学んでいただく機会とした。

質問や意見交換の時間では、「なぜ、江戸時代のこんな早い時期（17世紀前半）から南部（青森県下北半島：江戸時代は南部藩領）へ移住したんですか？」といった質問があり、「前田利家（秀吉の家来、初代加賀藩主）の頃から南部家とは親戚付き合いをしていたし、金沢城に天守閣があったことは南部藩家老の留書から証明されたようなもの。築城のための材木や釘を作る鉄も買っていたりしますよ」と回答した。このような、時間を設けることで追加して、興味・関心・疑問などから導き出された参加者と講演者による対話から、参加者の船や海、また郷土の歴史への関心を高めることを目指して実施した。

【来館者の声】

- 子供の頃、海でおぼれたので怖いんだけど、今日は良かった。（70代女性）
- 海の重要性が、今よりもっと基幹的だったことが分かった。（60代女性）
- 今まで船にあまり興味がなかったが、石川県が船で繁栄してきたことが分かった。金沢港には一度行ったがとても美しい風景だったので、いつまでも残していきたいと思った。（10代女性）
- 海があってこそ、私たちの生活が成り立っていると分かった。（60代男性）

■ワークショップ「結んで結んでストラップづくり」

【開催日時】平成29年4月22日（土）～5月28日（日）のうち
土日・祝日開催 9：30～16：00

【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【参加者数】770名（4/22、4/23、4/29、4/30、5/3、5/4、5/5、
5/6、5/7、5/13、5/14、5/20、5/21、5/27、
5/28）

【目標・内容】

- ロープワークの一つである叶結びの応用で、2本のひもを編んでストラップを作った。学芸員が、随時美術品の紐結びや梱包のロープワーク、新聞紙の縛り方から船の係留など、役に立つ結び方を紹介。展示の模型や古写真から、ロープの使われ方を紹介した。
- 北前船で使われていたロープから「命綱」や舳の言葉を紹介し、現代人も使う技術が、海に関わってきた人々から伝えられてきた知恵の技術であったことを気付かせるきっかけとした。



本来は、ロープの先端に輪を作る結び方の一つであった「叶結び」を応用して、組みひもでストラップを作成するワークショップ。年齢制限を設けなかったことや、随時参加ができたことから、想定以上の参加者を得た。参加者からは、ストラップの元となっている「叶結

び」に関する質問や、他の結び方、展示室にある船の模型のどの部分に使われているか、といった質問も多く寄せられた。

新しい興味を引き出せたことで、海の仕事や係留されている船、漁網などへと関心が連なり、周辺にある海がレジャーの場だけではなく、そこに様々な人たちが職業の場として関わっていることに気付くきっかけとなった。

【来館者の声】

○展覧会を見に来て、そのまま参加でき、持ち帰れるのが凄い。(40代女性)

○ロープワークにとっても興味がわいた。(10代男性)

○ボケ防止になるね。楽しい。(70代 ご夫婦で)

○ぼくもしょうずにできた。(幼稚園児 男性)

■ワークショップ「砂絵で描こう北前船」

【開催日時】平成29年4月22日（土）～5月28日（日）のうち
土日・祝日開催 9：30～16：00

【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【参加者数】770名（4/22、4/23、4/29、4/30、5/3、5/4、5/5、
5/6、5/7、5/13、5/14、5/20、5/21、5/27、
5/28）

【目標・内容】

- 糊パネを台紙とし剥離紙の上に北前船の絵を貼り、剥離紙ごと切り取った絵にカラーサンドを載せる。色の違う部分を区別しながら進めていき、完成させた。
- 砂絵という親しみやすいテーマを通して、ちいさな子どもたちにも自分たちの身近な海が、現代の高速道路のように、たくさんの荷物を積んだ北前船が行き来する「海のみち」であったことを気付かせるきっかけを提供した。



砂の色を決めながら、船体、帆、海、空などの部分を意識して作業を進めていく。そこから展覧会や船、海上保安庁に関心を持つ動機付けとしての効果を期待し、海難防止や海岸清掃などの海を守る活動の必要性にも気付かせる学習のきっかけを提供した。

待ち時間を使って、周囲にある海上保安部や海みらい図書館の展示に誘導し、北前船が運んだ産物や航路のパネル、船や灯台の模型、海洋汚染や海洋資源調査、離岸流など身近に存在する海を学ぶきっかけも提唱した。

【来館者の声】

○久しぶりに子供にかえたみたいで楽しかった。（40代女性）

○親子でいっしょにできて、小さな子どもも退屈しなかった。（30代女性）

■展示解説「北前船と日本海海運」

【開催日時】平成29年4月23日（日） 13:30～14:30
5月17日（水） 13:30～14:30

【開催場所】石川県立歴史博物館特別展第1・第2会場

【参加者数】33名（4/23）、34名（5/17）

【目標・内容】

- 実際の資料を観覧しながら、資料の持つ意味や伝来に関わるエピソードを紹介するとともに、参加者から質問や感想を受けて、対話形式で実施した。現代との関連性を説明し、江戸時代を中心に海と深くかかわってきた地域の歴史に気付かせ、今後の海との関わり方や新たな取り組みにつなげるきっかけを提供した。
- 興味ある人たちの疑問や思いに答え、海を守る活動への理解も得られるような工夫で展開した。



大阪から下関を回り、北海道へ至る航路図のパネルから、展示していない地域の歴史や研究の現状などを紹介し、海を通じて石川県とつながっていることを再確認し、あらためて海とのかかわり方を考えるきっかけや方向性の示唆を提供した。

砂浜の話題から、海岸の波打ち際を自動車で走ることができることで観光資源の一つとなっている「千里浜なぎさドライブウェイ」が、江戸時代までは「塵浜」と書かれ、

様々なものが漂着する場所であったことを紹介。さらに、最近では地球温暖化など、環境の変化によって浸食がすすみ、景観が変化し道幅（砂浜）が狭くなったことも話題とした。

身近にある海とどんな関わりを持っていくのか。利用か、保護か、共存か・・・そんな話題に関心を持ってもらうことから、海の学びへとつながっていくことが期待できた。

【来館者の声】

- 模型のスケールを教えてください。横に書いておけばいいのに。（70代男性）
*4月23日にこのご指摘を受け、さっそくプレートを設置した。
- 解説を聞きながら展覧会を見るのが好き。いつも企画してほしい。（50代女性）
- 展示解説があると知らないできたが、参加できてよかった。（50代男性）
- 絵馬の展示がなく違和感を感じていたが、解説を聞いて展示の意図がよく分かった。なくて正解だと思った。（60代男性）

■ワークショップ

北前船ペーパークラフト「琴平丸」を作ろう

【開催日時】平成29年5月3日（水・祝） 13:30～15:00

【開催場所】石川県立歴史博物館ワークショップルーム

【参加者数】26名

【目標・内容】

- 当館が所蔵し、展示資料でもある北前船模型「琴平丸」をモデルとしてペーパークラフトを開発し、その製品を利用して港や海に関する興味を喚起し、身近な海を学ぶ動機づけを目的として実施した。
- 立体的な模型を手にする事で、この船が行き来していた日本海に目を向けるきっかけを提供した。さらに、古写真などを示して、船乗りの姿や港の様子、船の姿などを学び、日本海の物流を支えた北前船の歴史、地域の海の歴史に興味を持ち、関心を持続させる効果を期待した。



木造の帆船を題材に、完成までの手順を踏んでいくうちに、船の前後がせりあがって、半円状の船体ができていることや、帆柱と帆の関係などを学ぶ機会とした。このような船の構造や仕組みに関する基本的な解説と模型作りを通して、船の安全やそのための施設（港や灯台、防波堤など）にも目を向け、船・港・海の役割を知るきっかけとした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

金沢海上保安部の展示に、灯台や巡視船のペーパークラフト作品があり、自ら作った北前船模型と比べながら、船の利用目的や航行の環境に合わせた船の形態を比較でき、多種多様な船が作られてきたことから、人々の海と暮らしとの関わり、海を介した経済活動の重要性などを学ぶきっかけとした。

【来館者の声】

○北前船が思っていた以上に小さいのでびっくりした。(男の子)

○和紙を使っているモデルが木の感じにあっていて良い。こんな小さな船で遠くまで行っていたのが不思議。(40代お母さん)

○日本は海に囲まれていて、守られていることが分かった。(60代女性)

○いろんな部品がありました。(女の子)

■北前船歴史関連バスツアー〔加賀方面〕

【開催日時】平成29年5月14日（日） 9:00～17:00

【開催場所】金沢駅—加賀市北前船の里資料館—金沢港大野灯台—石川県
銭屋五兵衛記念館—金沢駅

【参加者数】40名

【目標・内容】

- それぞれの地域で活動する地域ガイドの方から説明を聞くことで、地域に密着した船の歴史や海との関わりを学ぶ機会となった。
- 最近、入港のニュースが多くなってきた豪華客船も題材に、タグボートやパイロット、灯台など、航海にかかわるさまざまな安全のシステムを知り、海に関わる様々な仕事や暮らしとの関わりがある事にも気づいてもらうきっかけを提供した。それぞれの地域で活動する地域ガイドの方から説明を聞くことで、地域に密着した船の歴史や海との関わりを学ぶことができた。
- 金沢では、金沢海上保安部の協力を得、金沢港大野灯台に登って見学することができ、普段は見ることのない高い位置から金沢港の姿を見学することができた。



加賀市は、橋立の船主館がならぶ町並みが重要伝統的建造物群となっており、早くから北前船を発信続けている先駆的地域であり、日本文化遺産にも認定された地である。その地で、船主館にはいって地域ボランティアからの解説を聞くことにより、地域の思いや実情を学ぶことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

金沢の銭屋五兵衛記念館でも、館長から解説を聞き、豪商と呼ばれた船主の一代記を学ぶとともに、経営の特徴やリスクなどにも関心が及ぶこととなった。

金沢海上保安部の協力を得、金沢港大野灯台の内部を見学することができ、保安庁職員から灯台の構造や役割、金沢港の特徴の解説を受けた。レンズの大きさや、灯台から見渡す金沢港の風景から、海との関わりを実感した。

【来館者の声】

- 一日回って海の交通の重要性を学んだ。(50代男性)
- 昔も今も海は大変重要で大切なものですね。海が汚れないように川もきれいにしようと思います。(70代女性)
- 私たちの暮らしや歩みに対する海の役割、功罪、海を利用した人間の知恵のすごさを感じた。(70代男性)
- 先人たちの見事な先見の明に触れ、今生きている自分たちは何ができるか改めて考えてみようと思った。(80代女性)

■北前船歴史関連バスツアー〔能登方面〕

【開催日時】平成29年5月25日（木） 9:00～18:00

【開催場所】金沢駅—福浦湊旧灯台—巖門遊覧船乗船—輪島市天領黒島角海家（重要文化財）—天領北前船資料館—金沢駅

【参加者数】40名

【目標・内容】

- それぞれの地域で活動する地域ガイドの方から説明を聞くことで、地域に密着した船の歴史や海との関わりを学ぶ機会となった。
- 最近、入港のニュースが多くなってきた豪華客船も題材に、タグボートやパイロット、灯台など、航海にかかわるさまざまな安全のシステムを知り、海に関わる様々な仕事や暮らしとの関わりがある事にも気づいてもらうきっかけを提供した。それぞれの地域で活動する地域ガイドの方から説明を聞くことで、地域に密着した船の歴史や海との関わりを学ぶことができた。
- 金沢では、金沢海上保安部の協力を得、金沢港大野灯台に登って見学することができ、普段は見ることのない高い位置から金沢港の姿を見学することができた。



江戸時代に、全国に知られた風待ち港・福浦の現代の姿を見ながら、北前船が多数停泊していた江戸～明治期の姿を想像してみた。そこに、古くは灯台として薪を燃やしていた地に木造灯台が建てられたことを確認し、航海安全や港湾施設の役割を学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

遊覧船からは、北前船に乗った感覚で福浦港を外海から見たり、能登半島を回る際の日印とされた高爪山を、船から見る体験を行い、北前船の航海を追体験して海の持つ役割、危険、周囲のサポートなどを学んだ。

輪島市門前町黒島は、江戸時代に北前船で最も栄えた村であった。この町並みも重要伝統的建造物群に指定され、その中心である廻船問屋角屋の屋敷は重要文化財に指定され、輪島市天領黒島角海家として公開されている。ここで、地域ボランティアの解説を聞き、天領北前船資料館で黒島に伝わる北前船主・船員ゆかりの家に伝わる資料の一端を見る事が出来、北前船から得た利益の大きさに驚かされた。

このように、現地へ赴き、それぞれの地域で活動する地域ボランティアの方から説明を聞くことで、地域に密着した船の歴史や海との関わりを学ぶ契機となった。

【来館者の声】

- 能登の端っことで、日本全体を相手に活躍していた北前船主は本当にすごいと思いました。(70代男性)
- 海からの恵み、人間の才覚で良いほうへ持っていくようにしなければと思う。海に感謝して。(60代女性)
- 海は現在、食の供給源の感があるが、江戸～明治初めは交通・物流の役割が大きかったことを学んだ。今後の日本では、再び海上物流が復活しそうである。(80代男性)
- 商いは大きいかもしれないが、リスクも大きい廻船問屋。勇気ある人々によって海路が開拓されたことに頭が下がる。(70代男性)
- 北前船から海を学び、日本海文化のすばらしさを知りました。いにしへの知恵は現代のそれに勝るものがあります。もっと日本海文化に光を当ててください。(70代女性)

■石川の歴史遺産セミナー「北前船と蝦夷地」

【開催日時】平成29年5月20日（土）13:00～17:00

【開催場所】石川県立歴史博物館ワークショップルーム

【参加者数】80名

【目標・内容】

- 毎年2回行っている歴史遺産セミナーの今年度第1回のテーマを「北前船と蝦夷地」として実施した。日本海航路と北前船を仲立ちとした交流の紹介を通して、新たな興味へのきっかけづくりを期待した。
- 展示資料である蝦夷錦袷やイナウ奉納額の解釈をめぐる最新の研究成果を踏まえた研究発表が行われた。



北海道地域を中心に研究が進んでいる交易やアイヌ文化に関する研究発表と、シンポジウム。神への奉納品という意味を持ち「削り掛け」とも呼ばれる「イナウ」や、中国文化とアイヌ文化の北回りルートでの交流の一端を示すとされる織物「蝦夷錦（えぞにしき）」など、アイヌ文化に繋がる資料が展示されていることから、県内でも関心の高いテーマであった。

日本が海に囲まれた国であることや、石川県が日本海に突き出ていることはよく知られているが、この地域の北前船が蝦夷（北海道）を中継点として遠く中国大陆の文化をもたらしていたことが再認識できた。海を通じて各地・各国の文化や技術を生活に取り入れてきた地域の歴史や、先人たちの海との関わりがよりあきらかとなった。そこから、「海が身近な存在ということに気付かせ、有益性や危険性などの特徴を学び、海に寄り添った地域の活性化を探る」きっかけとなった。

交易も、北海道から運び出されたものをメインとする発表に対して、北陸地域から北海道に出かけた船、移住した人たちの歴史をたどり、日本海航路の歴史を学ぶきっかけ作りを行うことができた。

【来館者の声】

○あらためて、北海道との関係が深かったことが分かりました。(70代男性)

○イナウにとっても興味を覚えました。(60代女性)

■ミュージアムウィーク特別講演会

「歴史に学び大局観を養う～北前船と石川県～」

【開催日時】平成29年5月6日（土）13:30～15:00

【開催場所】石川県立歴史博物館ワークショップルーム

【参加者数】120名

【目標・内容】

- 毎年恒例となった春季ミュージアムウィークの関連事業として、歴史家の加来耕三氏を迎え、北前船を話題とする講演会を実施した。
- 地域密着の話題である「北前船」を、日本の歴史全体のなかに当てはめて考えることで新しい興味を引き出せる効果を目的とした。



石川県は、「北前船の地元」という感覚があり、地域史としての積み上げも大きい。その発展する契機としてもらえるように、学習歴史マンガで有名な加来氏に講演を依頼した。

歴史全体から見るとどう説明がつくのかという視点から歴史解説を行い、歴史の出来事が現代を生きていくうえでのヒントとなるという論点で講演が進んだ。北前船関係では、銭屋五兵衛の経営手法を取り上げ、利益の一部を自取り・再投資して巨大な廻船問屋に成長したことを指摘。海は荒海・難破の危険という負のイメージから、江戸時代の大量輸送手段であった船を駆使して財を成し全国に知られた豪商を育てた、大きな夢のある場所として、海の魅力が歴史の出来事として語られた。海の学びでは、この魅力が大きな動機付けとなるが、夢の途中で命を落としたものが少なくないことも重要である。

海のことを学ぶというのは、かつてどのような関係を持ち、どの特徴を利用してきたのかの理解と分析であり、そこから海との新しい関係が築かれていくとされた。

著名な方の講演は、聴衆の方々への浸透度も高く、意識づけやきっかけ作りに大きな効果がある。日本各地に残る難破船の救助話や、航路上の難所も、そこを知ることが新しい興味や観光資源としての利用、安全対策の発想などに拡散し、海のことを学ぶきっかけとなることが理解された。

【来館者の声】

○歴史の面白さを感じました。

○もっといっぱい聞きたかった。

■連携事業「海上保安庁のお仕事紹介」

【開催日時】平成29年4月22日（土）～5月28日（日）
9：00～17：00

【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【事業主体】金沢海上保安部

【参加者数】14,250名（4/22～5/28の期間）

【目標・内容】

●海上保安庁業務紹介パネル、巡視船艇・灯台ペーパークラフト模型、歴代巡視船艇写真パネル、金沢港新旧海図、3D海底地図、離岸流危険啓発パネルなどを展示。緊急海難ダイヤル「海のもしもは118番」啓発事業、「海の警察官」紹介事業と連携し、異業種連携による新しい視点の想起から、海と関わってきた歴史や、海を守る活動を知るきっかけを提供した。



ストラップづくりと、砂絵のワークショップ会場の周囲に、画像や海図を入れたパネルや灯台と巡視船艇のペーパークラフト完成品を展示したことで、入館者の興味を引きやすくなり、展示を観覧する人数増加につながった。

3D海底地図は、地震発生のニュースが多いなか、身近に在る海との関わりを意識し直すきっかけとして関心を集めた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■連携ワークショップ「海上保安官うーみんな来館」

【開催日時】平成29年4月23日（日） 9：30～16：00
5月27日（土） 9：30～16：00

【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【事業主体】金沢海上保安部

【参加者数】56名（4/23）、65名（5/27）

【目標・内容】

- 海上保安庁公式キャラクターうーみんなが来館。海上保安官の制服を試着して、記念写真を撮影する。金沢に海上保安部が存在し、海を護る業務に就いていることを知ってもらう機会とした。
- 緊急海難ダイヤル「海のもしもは118番」啓発事業、「海の警察官」紹介事業と連携し、異業種連携による新しい視点の想起から、海と関わってきた歴史や、海を守る活動を知るきっかけを提供した。



博物館でキャラクターを迎えるのは初めてで、主客ともに戸惑う場面もあったが、制服試着やうーみんなの姿が見えると、すぐに人だかりができ、認知効果は大きなものがあった。海上保安庁—うーみんな—海のもしもは118番の周知効果に期待ができ、参加いただいた方々が今後海と親しんでいただく際、安全意識を高めるきっかけとなった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■連携事業「金沢海みらい図書館の紹介」

【開催日時】平成29年4月22日（土）～5月28日（日）
9：00～17：00

【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【事業主体】金沢海みらい図書館

【参加者数】14,250名（4/22～5/28の期間）

【目標・内容】

- 金沢海みらい図書館は、城下町金沢の外港として栄えた宮腰地域に市内4番目の大規模図書館として整備された。基礎資料のほか、地域の特色である日本海にまつわる資料やものづくりに関する資料を積極的に収集してきた。この度「海、船、灯台に関する書籍」の展示や、図書館が紹介する北前船の情報をパネルで展示した。
- 北前船の歴史の本や、船の構造を学ぶ本、海上保安官になるための本なども紹介し、海を守る活動を知るきっかけを提供した。



金沢市の図書館の中でも、海に特化した図書館として知られ、毎年の行事でも、ミニ展示やワークショップで海にかかわるテーマを取り上げている。展覧会に来館した人が図書館のコーナーに驚く場面もあったが、内容を見て歴史や北前船の本にも興味を示していた。

本企画展では主に海に関する歴史や文化、産業をテーマに取り上げていたが、本コーナーを設けることで、さらに海的环境や職業といった多角的な分野の情報を提供することができ、来館者の海への関心を引き出すきっかけを提供できた。

■連携ワークショップ「金沢海みらい図書館

—北前船ミニ検定—

【開催日時】平成29年5月3日（水・祝）9：30～16：00
5月27日（土） 9：30～16：00

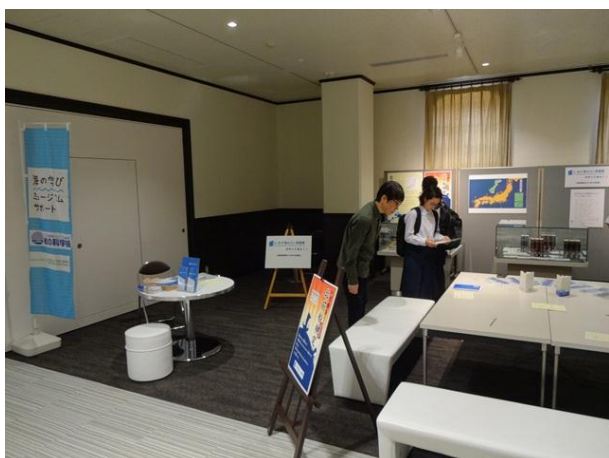
【開催場所】石川県立歴史博物館ギャラリーコーナー

【事業主体】金沢海みらい図書館

【参加者数】30名（5/3）、36名（5/27）

【目標・内容】

- 金沢海みらい図書館が展開している展示空間から4問を出題。全問正解者には、図書館特製の文庫本用ブックカバーとクリアファイルをプレゼントする企画。有名な北前船主、北前船の名称、主な積み荷、航路などの設問。展示を見るとすぐわかるように工夫されていた。ミドルエイジ層をターゲットに実施。基礎的な情報をおさらいすることで、動機付けを期待して実施した。
- 北前船の歴史の本や、船の構造を学ぶ本、海上保安官になるための本なども紹介し、海を守る活動を知るきっかけを提供した。



図書館と博物館は、似て非なりなところがあるが、今回の企画では、自主学習をサポート・動機付けといった点で、図書館の持つ特性を博物館で発揮する形となった。

北前船検定の正解者プレゼントも、北前船のシルエットをデザインに取り込んだブックカバーで、日本海や北前船への関心を引く格好の素材となった。

この図書館は、金沢市域の中で直接的に北前船と関連を持つ大野・金石地区に設置されており、『こども金沢市史』にも「地域産物の流通を支えた北前船」、「豪商・銭屋五兵衛」、「銭屋の商いと船の動き（西廻り航路図）」、「酒・塩・砂糖を北海道へ持っていき、鯨や昆布を持ってきた」といった歴史が紹介されている。子供たちが学んでいる基本事項をクイズ形式で提供し、知識のおさらいと新しい海の学びへのきっかけを持ち帰ってもらう目的で実施した。

【事業全体のまとめ】

☆展覧会は、各地から資料借用を行って実行しているが、本サポート事業の活用により、遠隔地から大型資料の輸送が可能となり、当館では初めて遠距離フェリーを利用した北海道からの借用を行った。そのことが、観覧者の目線も広げることに繋がり、日本海の大きさを実感する一助となった。

☆関連事業の実施は、その予算裏付けを含めて本サポートが無ければ実現無しであったところであり、通常の展覧会に、北前船模型 10 艘と多彩な関連イベントという強力なアピールポイントを追加することができた。そこから、普段「歴史は苦手、嫌い」という方々も、海の持つ力の大きさや、石川県を取り巻く日本海に改めて関心を持ったという感想が寄せられた。

☆過去の展示ではなく、現代に繋がる学びを展示する目標のもと、金沢海上保安部や金沢海みらい図書館という一見「異業種」と思える機関と連携ができたことで、新たな視点を提供することができた。

☆今回の企画展は、北前船や日本海という地元県民にとって極めて身近によくわかっていると思われがちなテーマであった。本サポート事業により、大坂を意識しない、現在の手法・施設との比較、現地へツアー、現地の方の解説など、大胆な手法や別視点からのアプローチなど斬新な企画を打ち出せたことで、多くの方々に興味を与えるきっかけを提供することができた。アンケート結果など反響が大きかったことに対し、情報提供や学びの場面の創出など、継続的な海の学びの実践の必要性和責任を実感している。

3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称 | 連携・協力の内容 |
|----------------|----------------------|
| 1. 海上保安庁海洋情報部 | 古い海図データの提供 |
| 2. 金沢海上保安部 | 展覧会サポートと、施設見学・業務紹介 |
| 3. 金沢海みらい図書館 | 展覧会サポートと、業務紹介・秋に資料貸与 |
| 4. 石川県銭屋五兵衛記念館 | 施設見学と資料借用、画像提供 |
| 5. 加賀市北前船の里資料館 | 施設見学と資料借用、画像提供 |
| 6. 輪島市天領黒島角海家 | 施設見学と資料借用、画像提供 |
| 7. 函館市中央図書館 | 資料借用、画像提供 |
| 8. 江差町教育委員会 | 資料借用、古写真提供 |
| 9. 松前町教育委員会 | 資料借用、画像提供 |
| 10. 小樽市総合博物館 | 古写真提供 |
| 11. 船の科学館 | 資料借用、画像提供 |
| 12. 鉄道博物館 | 資料借用 |
| 13. 青森県立図書館 | 画像提供 |

※主に教育機関や地域団体、他館などを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名 | 見出し、掲載日 |
|-------------------------------|--|
| 1. 北陸中日新聞 | 県民文化情報No.248 4月13日 |
| 2. 北國新聞 | 展覧会事前告知広告 4月18日 |
| 3. 北國新聞夕刊 | 展覧会事前告知広告 4月18日 |
| 4. 北國新聞 | 広報いしかわNo.1962 4月19日 |
| 5. 北國新聞 | 北前船10隻迫力の「出航」 4月21日 |
| 6. 北國新聞夕刊 | 北前船の歴史伝える 4月22日 |
| 7. 北國新聞 | 北前船の史料 一堂に 4月23日 |
| 8. 北國新聞 | 展覧会告知広告 4月26日 |
| 9. 北國新聞夕刊 | 旧福浦灯台の灯り 4月28日 |
| 10. 北國新聞 | 蝦夷錦の袷袋を初公開 4月29日 |
| 11. 毎日新聞 | 模型や客船帳展示（日本遺産認定関連）4月29日 |
| 12. 北國新聞 | 北前船展 先人に思い 4月30日 |
| 13. 北國新聞 | 紙で北前船作り 5月4日 |
| 14. 北國新聞 | 日本遺産「北前船」に理解 5月7日 |
| 15. 朝日新聞 | 「日本遺産」北前船の歴史たどる 5月13日 |
| 16. 北國新聞 | 北前船ゆかりの地バスツアーで巡る 5月15日 |
| 17. 北國新聞 | 北前船介した交流学ぶ 5月21日 |
| 18. 北國新聞 | 展覧会告知広告 5月21日 |
| 19. 北國新聞 | 北前船ゆかりの地巡る 5月26日 |
| 20. 第九管区海上保安本部ホームページ 今週の一枚 | 石川県立歴史博物館で海上保安庁業務紹介 4月23日 |
| 21. 金沢海上保安部ホームページ 新着情報 | 石川県立歴史博物館内に、海上保安庁の業務紹介ブース 4月22日 |
| 22. 海上保安新聞 | 石川県立歴史博物館で展示 6月15日 |
| 23. 海上保安新聞 | 私の企画展で海保紹介 6月22日 |
| 24. 博物館研究（2017-4） | 口絵に「琴平丸」模型写真がカラーで掲載。 各地の展覧会で、開催記事を掲載。 |

※TV・新聞・雑誌等、主なものを中心に記載。表が不足する場合等は適宜増減すること

以上